

令和7年9月 市長定例記者会見

2025年9月1日(月)

午後1時30分 開始

【広報広聴課長】 それでは定刻となりましたので、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 今日、9月議会の招集を告示させていただいております。来週月曜日から開会ということになっております。9月補正予算、それから一般議案を上程させていただくこととなります。

常日頃思っているんですけれども、議会に対しては丁寧の説明をしていきたいと思っておりますし、最終的に出した議案については承認をいただけるようにしていきたいと思っております。

それから、明日から3日間、9月2日から4日までということなんですけれども、恒例の敦賀まつりが開催をされます。

今年ならではの行事といたしましては、お祭り広場のほうで人間国宝の鶴賀若狭掾さんによる新内流しをしていただきます。

それから今、大阪・関西万博をやっていますけれども、その万博のPRブースを予定をしています。関西万博の公式キャラクターのミャクミャクも祭りのほうにやってくると、敦賀のほうにやってくるということになっています。

それから9月の13日、14日と、9月はめじろ押しなんですけれども、おぼろっくも開催されるということで、こうした敦賀で開催されるイベントのほうに市内、市民の方々、多く参加していただきたいと思っておりますし、ぜひ市外、それから県外のほうからもお越しただいて参加していただけるとありがたいなと思っております。

今、暑いので、安全とか、それから熱中症には十分気をつけながら我々としても取り組んでいきたいと思っておりますけれども、みんなで楽しんでいきたいなと思っております。

冒頭、私のほうからは以上です。

【広報広聴課長】 続きまして、事業発表に移ります。

令和7年度9月補正予算案の概要についてお願いいたします。

【市長】 今回の補正予算につきましては、前回の6月の補正予算以降に予算措置が必要となったものを計上しております。物価高騰対策とか子育て環境の充実等について必要な

予算計上をしたということです。

その中で、物価高騰対策についてですけれども、今、本当に食材の仕入れ価格が高騰しているというところがあるというのは皆さんご承知だと思うんですけれども、そうした中で提供する学校給食の質、それから量を維持していくということが必要になってきます。今、敦賀市は一定保護者負担もしていただいているんですけれども、ある一定の額以上は、小学校が4,400円、中学校が5,000円ですけれども、それ以上のところは現在でも公費負担しているんですが、物価高騰分、食材の高騰分について食材料費を増額していくと、公費負担分を増額していくということになります。

次に、漁家燃油高騰対策支援事業ということで、今、漁業経営のほうでは燃料費というのが大きな割合を占めるようになっていきますけれども、これも高騰著しいというところで、船舶に使用する軽油の価格上昇分の一部を支援するというのを提案していきたいと思っています。

それから福祉部門ですけれども、福祉施設、これは介護施設だったりとか私立保育園等になりますけれども、そういった福祉施設における電気料金等の高騰分を支援していくというような形で物価高騰対策の予算を持っております。

次、子育て環境の充実の部門です。

認定こども園関係で2つありまして、一つが栗野地区の認定こども園整備事業ということで、栗野地区の認定こども園の建設に当たりまして、予定している園の場所への取付道路工事、それから敷地の造成工事を行うということにしています。これは栗野中学校が上のほうにあって、ヤスサキのグルメ館、スギ薬局があるところなんですけれども、予定地はここになっておりまして、ここへの取付道路、それから敷地造成の予算を持つということです。

次、もう一つ認定こども園で、松原地区の認定こども園です。これは下のほうが市営球場ということになって、ここが松原小学校なんですけれども、松原児童クラブの横のところが予定している敷地なんですけれども、ここの敷地の整備工事、それから周辺施設利用者も含めて駐車場の整備をしていくということで、これの実施設計を行うことにしております。

次は、これも子育て環境充実の分野で、新たな学校給食センターの整備に係る建設工事、それから厨房機器工事を実施するという予算を持っております。

次に、その他の中で主なものを2つ紹介させていただきます。

1つ目に女子レスリングの日本代表合宿を敦賀で開催するという事で、その事業の補助金を持っています。今、敦賀でもレスリング関係がすごく盛んになってきて、頑張っていて、成績も日本レベル、それから世界レベルでもいい成績を収めるようになってきております。そうしたレスリング競技において、市内の子どもたちのレスリングの競技力の向上、それからこうやって全日本クラスの人が合宿をするということで、スポーツによる交流人口の拡大も図れるということを考えて、敦賀で開催される女子レスリングの日本代表合宿の費用を一部助成するというものです。

次に、まちづくりアクションプログラム推進事業ということなんですけれども、これは何かといいますと、まちづくりアクションプログラムの中に位置づけられておりますラーメン街道の復活というところで、この復活に向けて、敦賀の文化とも言える敦賀ラーメンの魅力をSNS等で発信するような、要は認知度の向上を図るような事業をやっていくということを考えています。

以上が今回の補正予算の概要です。

【広報広聴課長】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問をお受けいたします。最初に幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 最後のラーメン街道の復活なんですけれども、復活に向けて、大体何店舗までを目標とされるのかというのがもし具体的にあればというのと、あと、こちらのほうでは書かれてなかったんですけど、事前にいただいたこちらの資料で店舗へのヒアリングというのも予算の中に書かれているんですけども、そのヒアリングというのは、既存のラーメンの実店舗に向けて屋台でも出しませんかとか、何かそういったヒアリングをされるのかということをお伺いさせていただけますでしょうか。

【市長】 まず店舗数なんですけれども、特に目標を設けているわけではないです。ただ、敦賀は結構新しくラーメン屋さんをやってくれるところも増えてきているということもあって、そういうところも含めて、それから老舗のところも含めて、さっき言ったヒアリングとかをやって、これからこのラーメン街道を復活し、それから文化として敦賀のラーメンをPRしていくためには、皆さんどのよう、我々行政も携わりながらやったらいいかというようなことを一回ヒアリング、今までなかなかそういう機会もなかったので、一回しっかり聞いてみようと。例えば協力してやっていけるところは協力して、あるいは連携してやっていけるところは連携してというところに結びつけられるといいなと思っています。

【記者】 先ほど市長も言及いただきましたけど、レスリングに関して、こちら非常に今盛んになりつつある、競技関係も整いつつあるというところで、自治体によっては特定のスポーツをちょっと強めに応援するみたいなこともあると思うんですが、敦賀市でもレスリングという位置づけ、そのように考えていこう、その一環だというようなお考えなのでしょうか。

【市長】 どっちかという、レスリングを取り上げて力を入れるというよりも、レスリングが本当に盛んになってきているというのは敦賀であって、ただ、例えば練習環境だったりとかそういうことが今まであんまりそういう意味では、本当に学校単位でやっていた感じだったので、ジュニアのチームとかはできているんだけどもそれに対応するような練習場所がなかったりとか、そういうところは、ほかのスポーツと同じように、競技人口がある程度あるほかのスポーツと同じように環境を整えていく必要があるなと思っています。

そういう中で、本当に今ぐっと伸びてきているところがあって、それはやはり一つの我々としてもチャンスだし、市民にとってもいい影響がある。やはりスポーツで活躍するというと、ほかのまちでもそうですけれども盛り上がるというのはあるので、そのようになってくれたらいいなという意味で、今だからこそ敦賀のレスリング界に刺激があるような。

僕らも、今、敦賀がそういうレスリングが盛り上がっているんだよということを市民の人にも知ってほしいというのもあるので、本当にいい機会かなと思って、今回この合宿に関しては応援していきたいなと思っているというところです。

これを何か敦賀の国技みたいなところとかまでは特に考えているわけではないんですけども、このタイミングで、ちょうど応援できるいいタイミングかなとは思っています。

【記者】 要は熱の高まりに追いついていない環境を少し一押しするというような。

【市長】 そうです。環境面でいうと、本当に今おっしゃられたとおり、競技人口は増えているんだけども、できる場所というのが去年までなかったのが実態だったので、そこら辺は環境整備ということはしっかりやっていきたいなと思っています。

【広報広聴課長】 それでは次に、各社より質問をお受けしたいと思います。何かございますでしょうか。

【市長】 今のレスリングの合宿ですけれども、これは、いつ、どちらで開催される予定なのでしょうか。

【市長】 場所は敦賀で、主に多分、運動公園の体育館周りでやっていくことになると思

います。それから時期は2月でしたね。2月末が予定されている。期日ははっきり決まっていたでしょうか。

【文化交流部長】 一応今のところの予定が2月26日から3月2日までというふうに聞いております。

【市長】 予定ということですね。

【広報広聴課長】 そのほかございますでしょうか。

それでは次に、フリーの質問対応に移りたいと思います。初めに幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 昨日、高浜町長選の結果が出ましたけれども、同じ嶺南市町として、もし何かコメントが一言あればいただけたらと思ひまして。

【市長】 まず、当選された西嶋さんには、お祝いを申し上げたいと思います。昨日、私も事務所のほうへ駆けつけましたけれども、お祝いを申し上げたいと思います。

我々、私、市長になってからもそうですけれども、野瀬さんには本当に大変お世話になって、いろんなことを教えていただいたと。その中で、割と西嶋さんとも交流する機会とか一緒にいる機会も多かったということで、野瀬さんの路線を継承される、それから我々は西嶋さんのこともよく知っているということもあるので、正直、今回の結果については安心感があるとか、そういう思いが昨日率直にはしました。

これから、例えば原子力のことだったりとか、例えば観光振興で嶺南で一緒にやってくということだったりとか、非常に場面場面で我々と一緒にいる機会が多いので、これから嶺南地域の振興のために、一番東と一番西ということになりますけれども、協力してやっていきたいなと思っています。

【記者】 敦賀まつりの宵山と山車が市の無形民俗文化財に登録されたということなんですけれども、なぜこのタイミングだったのかなということ。もっと昔からなっているのかなと個人的に思っています。

【市長】 山車に関しては、復活した部分もあつたりとかということで、ずっと来ている中で、あんまり初期の頃にそういう文化財にはなっていなかったのかなと個人的には思うんですけど、はっきりしたことは、お願いします。

【文化・交流推進課主幹】 山車の調査ということ、宵山の調査につきましては、文化財になっている山車も一部ございます。6基のうち3基、文化財になっているんですけど、平成30年から令和4年にかけて、残りの3基、さらに宵山を含めて総合的に山

車を改めて調査するという事業を行いました。そしてそこで分かった成果から、山車だけじゃなくて宵山も含めて、すばらしい江戸時代の文化を示す、町文化を示す文化財となる。その巡行というのは非常に由緒あって価値のあるものだということが分かってきましたので、それを文化財保護審議会に令和5年度から諮りまして、追加調査を含めて、そして全体が文化財にちょうど8月29日に指定になったという経緯になります。

【記者】 この中にはないですけども、少年自然の家が閉鎖されるというようなお話を少し仄聞いたしました。なかなか市で持っているところはないので、大変な状況なんだろうなというのは推測するところなんですけど、私も子育てしていて、お父さん、お母さんから少年自然の家の思い出をたくさん聞くものですから、その背景を知りたいなと思ひまして質問させていただきます。

【市長】 今まで話し合いを進めている最中だということではあるんですけども、私も子どもの頃、小学校のときからあった施設なので、自分も泊まったこともありますし、いろんな行事だったりとか、それから遊びに行ったりもしたことがあるということで、思い出を語る敦賀の人が多いいいのも、私もその一人だと思っているんですね。

でも逆に言うと、私が子どもの頃からある施設で、もう古くなっている。一番の問題は安全性を確保できるかというところで、本当に安全性をちゃんと確保していくということを考えると大規模な改修が必要となってくるタイミングになりますし、もしくは新築を考えなければいけないというようなことが選択肢になってくるんですけども、正直申し上げて、今の利用者の数だったりとかこれからの状況を考えると、そういう大規模な改修をして存続させる、あるいは新築をして存続させるという選択肢を採れるかというところ、ちょっと難しいなというところを思いながら協議を進めているというところなんです。

【記者】 それから話題が変わりまして、先日、関西電力が県に示した新しい地域振興の仕組みというのがあったと思います。敦賀は立地ではないですけども、県全体でいろんなものに使えるので敦賀も関わってくるかなと思うんですけど、額も大きくなって、当然いろんなことに使えるので、住民生活の向上につながるんだろうなという反面、増えたり減ったりというのが運転状況によってあるというところで、この点については懸念も感じるところで、場合によっては再稼働に同意するかしないかとかそういったような状況で、行政が監督をする側面がある中で、その監督対象が要は首を横に振ったら金額は減ってしまうよということも事実上そういう形にはなっている。意図があるかどうかは別としてそういう形にはなっているということで、今までももちろん交付金とか核燃料税とかは動かな

かったら減るといのはあるんですけども、直接の対象がそういった関係になっているといのはあまりフェアではないように思って、福井でやったことといのは全国の立地県に広がっていく傾向があるので、全原協の会長さんとしても、その辺お考えがあればお聞かせください。

【市長】 ご懸念といのは、すごくよく分かりますね。これを見ると、そういうことを心配される人がいるといのはすごくよく分かります。

今度、我々の立場でいうと、僕らがそういうことを判断するとき、何につけても最初に来るのは安全性だったりとか、それに伴って我々が安心できることといることになりますので、例えばそういう経済的な恩恵があるから、稼働率を上げるために安全・安心をないがしろにして、あるいは優先順位を少し下げる形で稼働を認めていくんだといことは、これは我々としては絶対にしないといことを思っています。

それはほかの自治体のこういうことに関係する人といのは皆さん思っていることだと思えます。

例えば福井県でいうと、福井県、原子力の3原則を持っていますけれども、やはり1番目に来るのは安全・安心なんですよね。地域振興といのは3番目に来る話で、優先順位は、私そのままではないかなと思っているんですけども、我々が政策判断とか、あるいは認可みたいな判断をするときに、安全・安心以上の優先順位の高いものはないと、今後ともそういうスタンスで判断をしていくといことを我々の立場からは申し上げたいと思います。

【記者】 もちろんそれは当然あると思えますし、もちろん電力会社も安全をないがしろにするといことはないとはい思うんですけども、ただ、これはどうしても見る側としては不安になる。安全は分かりませんが、安心の面では少なくとも不安になりますし、米澤市長はそうされなかったとしても、未来永劫そこに気を取られる首長さんが現れないとい保証もないとい中で、制度として残していくことがどうなのかといところはやはり懸念があると思うんですが、この辺、再考を求めていったりとかといことはないでしょうか。

【市長】 今回こういう形で算定の仕方といのは出たので、これはもともと、どちらかといると県のほうから宿題が出ているような形、それに答えたといところで、これからいろんなコミュニケーションといのは、お互いに協議といのはやっていくと思うので、その協議についてはしっかりと見守っていきたいなと思っています。

おっしゃるとおり、将来的にどういう人が出てくるか分からないということはあるんですけども、判断をする立場になる、我々のような立場になる人間というのは、やっぱり選挙で選ばれて出てくるということがありますよと。

そのときに、有権者、自分たちを支持する、市の市政をリードしていく立場になる人というのは、やっぱり必然的に安全・安心を優先するということをやっていくと思うんですね。今の選ばれ方というのはそういう仕組みだと。そこがある程度の判断する人の資質というところを保証しているというところはあると思うので、私からすると、そのところはある程度政治の仕組み上、担保されていくんじゃないかなと思っています。

そうは言いながら、理論的に言うと今みたいな懸念というのもあり得るとは思うので、それについては今後協議を見守っていく、よりよいやり方があるのであればということとは思わないではないですけども、今のところはまだ出たばかりなので、ちょっと見守りたいかなと思います。

【広報広聴課長】 それでは、次に各社よりご質問をお受けしたいと思います。何かございますでしょうか。

【記者】 昨日、西嶋町長が誕生して、今日、初登庁だったということで、その前の野瀬町長は生前からバックエンド対策のほうに積極的に取り組まれてきた方だと思うんですけど、改めて西嶋町長に、今後、野瀬さんの後継として求められる、どういう議論を求めていきたいとか、全原協の中でどういった立場を推進してほしいかという期待みたいなおころをお願いします。

【市長】 野瀬さんは本当に、いろんな制度であったり、現状ということにお詳しい方で、それを基にいろんな場で発言も積極的にされていた、自分の言葉で語られる人だったかなと思っています。

そういうのをずっと支えてきた西嶋新町長ですので、多分、路線というのはそんなに変わらないんだろうなと思いますし、願わくば野瀬さんのように、いろんなことで積極的に発言もされ、やはり原子力で野瀬さんが頑張ってきたところを引き継いで、我々の中でもすぐにでもリーダーシップを取っていただくような形でやっていただけたらかなと思っています。

西嶋さんは、恐らくすぐにでもそういうことができる方だというふうに日頃お話ししていて思いますので、そういうところを期待しています。

【記者】 分かりました。あと、ちょっと事務的な話なんですけど、全原協の副会長とい

うところは継承という形になるんですかね。高浜町で。

【市長】 あれはたしか継承でしたよね。

【記者】 そうすると、バックエンドの検討委というの、位が継承という感じになるんですか。

【市長】 バックエンドの検討委員会については、ちょっと別の話ですね。さっきの全原協の役職の継承は、あれは規約の中にたしか明文化されている中で、そのまま野瀬さんがされていた役職に入ると。これは私も一緒だったんですけども、そのようになっているんですけども、バックエンドの検討委員会は全く別のつくりでやっていますので、それはそれで今の副委員長をされている方を中心に、今後どういう役職でやっていくのかというの、協議するんだろうと思っています。

【記者】 続けざまに原子力に関連する質問で恐縮ですが、先日、原電さんが2号機の追加調査の内容を公表されました。少し前に公表されたので市長も目は通していると思うんですけども、そのことについての受け止めと、どのように今後対応してもらいたいのか、そのあたりをお願いします。

【市長】 これも私も毎回言っていることでちょっと恐縮なんですけれども、規制委員会の審査を本当にしっかりしていただいて、そこでちゃんと認可を受けたものが初めて我々もそういう厳しいプロセスを経て認可されて、なので安全・安心というものも担保されていくんだろうと思っていますので。

原電さんは、一回はそこで認可されなかったということがありますから、そこで再挑戦というところなので、特にここはしっかりと調査をしていただいて、しっかりと審査を受けていただいて、その上で運転のほうに行くというのであれば、認可されるということであれば、それは一つの安全・安心の担保であると思いますし、とにかくしっかりとした調査、審査への取組をやってほしいと思っています。

【記者】 今回、坑道を掘って実際に断層の状況を目視で確認できる。専門家でもない、実際審査するのは規制委さんだと思うので、個人的なところとしてはこれ以上ないところまで調査するというような受け止めを、印象を受けたんですが、そのあたり市長はどうでしたか。

【市長】 原電さんは、多分そんなチャンスってもう何回も設定されるわけもないと思っていますので、ここで本当にしっかりと自分たちの主張を裏づけるような調査をされるんだと思うんですね。そうした意味では、先ほど言われたように、直接断層を目視でき

るような調査をするんだとか、ほかにも箇所を増やすんだとか、いろんなことを計画されているみたいですが、自分たちが安全だと、そこに活断層が通ってないんだよという主張をするのであれば、それが裏づけられるようなしっかりとした調査をしてほしいということに尽きると思います。

【記者】 敦賀市職員さんの死亡事案の再発防止プロジェクトなんですけれども、お示ししていただいたスケジュールでいくと、8月下旬にたしか中間報告があつて、9月下旬に最終的にまとめられるということだったと思うんですけれども、進捗状況はいかがでしょうかということと、もし中間報告が終わっているのであれば、手応えのようなことを今感じてもらっていいことを教えてください。

【市長】 中間報告については、8月28日に報告を受けています。チームのメンバーから私が直接報告を受けました。

そのときに受けた印象なんですけれども、本当にしっかり考えていただいているなというのを率直に思いました。いろんなケースだったりとかいろんなパターンというのを想定しながら、穴がないように、抜けがないように、かつ、例えばそうやって困っている人が相談するということが生じたときに、その人たちの立場に立ってちゃんと考えてくれるなと思いました。

そういう意味では、本当にプロジェクトチームとしていい活動をしていただいているなと思いました。

今後ですけれども、一応予定としては9月の末に最終報告というのを予定しているということです。

今、正直、プロジェクトチームに参加しているメンバーも結構忙しく仕事をしている。仕事は基本的に皆さん忙しくしていると思うんですけれども、その中で活動しているので、あまり無理はかけたくないなというのは正直あるんですけれども、そうしている間にも、ひょっとしたらさっき言った困っている人もいるかもしれないというところで、目途としては9月の末を目途に最終報告という形にしたいなと思っています。

これについては、ただ、そこで全部が終わりというわけではないと思っていて、何らかの形でそういった改善というのは我々としては考えていくんだろうなと思っています。

予定している9月末の最終報告がゴールではないというイメージは持っています。

【記者】 それと、ちょっと時間がたってしまったんですけれども、第三者委員会の委員長さんにインタビューさせていただく機会がありまして、委員長さんとしての思いとして、

職員の市長も含めてですけれども処分を公表、処分をされたという中で、直属の上司の方だけが飛び抜けて重いというようなことをご指摘されていて、委員長自身の思いとしては、その人個人だけの責任じゃないけれども、その処分を見ると自分の思いとは少し違ったというようなことをおっしゃっていらっしゃったのですけれども、市長として1か月余りたつての思いというか受け止めというのを教えてください。

【市長】 記事も読ませていただきました。

私、処分を公表した後については、いろんな意見はいただいています。重いという評価をされる方もいれば、軽いというふうに言われる方もいる。重いと言われる人たち、あるいは軽いと言われる人たちに対して、いちいち私たちが、それは違いますよ、それは違いますよと言うつもりは全くないんですけれども、どのように我々は今回の処分について決めたのかというところだけ説明させていただきますと、やっぱりこういうことというのは全国各地に悲しいことですが事例があるんですよね。先例みたいなものがあって、そういう事象があるということは、それぞれ処分が下されているというのがあって、それについて、我々は今回の処分を考えるに当たっていろいろと事例を調べてきたということがあります。

そうすると、大体どの自治体でも同じようなことを恐らくやっていて、大体こういうときにはここら辺の処分になるなど。それは月数だったりとか、あるいは給料の減額だったり、大体ここら辺になるなどというのがあります。

あとは、そこから厳しめに考えるのか、そうじゃないのかということになってくるんですけれども、我々の決め方としては、そうした今までのいろんな自治体での事例を調べ、そして自分たちとしては、それは直属の上司以外も含めて厳しめに今回の処分については判断したということです。

それをもって、例えば重い軽いについていろんなご意見があって、それは違いますよとか、それは正しいですよこちらは言うつもりはなくて、ただただ自分たちとしてはそのように決めたんだということだけお伝えしたいなと思っています。

【記者】 先ほども質問が出て、重ね重ね恐縮ですがけれども、関西電力さんの地域振興の件で、巨額の拠出ですがけれども、共創会議の中でもいろんな地域振興策が議論されていますけれども、敦賀市さんも寄附を申請する権利があるかと思うんですがけれども、敦賀市さんとして、第二環状道路とかいろんなことが共創会議の中で約束されていますけれども、優先事項といたしますか、敦賀市さんとして特にあの基金を活用して整備を求めたいという

か、優先事項、そういったものはあるのでしょうか。

【市長】 一つあるのが、基金を、今回拠出されるものを活用してというところが、まだ我々としてはよく分かってない部分があるので、それを使ってこれをお願いしますという話では今の段階ではないだろうなと思っています。

ただ、電力事業者さんって、原子力基本法の中で地域振興に関しては責務があるとなっている中で、我々福井県としては、共創会議という枠組みの中で地域振興については考えていきますよということをやっていますと。その中で敦賀に関係する幾つかの事業がありますし、今上がってないものでもこれから出てくるかもしれませんけれども、そうしたものの一つの財源として。財源というのは正直いろいろあると思うんです。国からの財源、県からの財源、市からの財源、そして事業者からの協力支援というものもあるんですけれども、それがどのように財源として用いられていくのかというのは、まだ我々としては分かっていないとか決めていないというところがありますので、それは今後の協議になるのかなと思っています。

我々共創会議の枠組みの中、それからそれ以外のところでも、原子力の立地として、こんな地域になっていったらいいなということはずっと言ってきたわけですが、それについて国だったり県だったり、それから事業者からの支援ということは、これはいろいろ相談しながらしっかり求めていくものは求めていきたいなと思っています。

【記者】 前回の補正予算で、元暴力団事務所の購入を決められたということだと思うんですけど、秋頃に取得の予定ということだったんですけども、現状の進捗だったり、あと使い道も未定というようなこともあったんですけども、その後の動きとかありましたら伺いたいです。

【市長】 本契約についてはまだということなので、本契約になるまでは、用途だったりとか使途だったりということについてはちょっとまだ対外的に申し上げるのはやめておきたいなと思っています。

今の段階は、本契約に向けて、こちらの感触としては順調に来ているのかなという段階です。

【記者】 それが決まってから、使い道というか今後のことについては。

【市長】 協議していくことになると思います。

【記者】 分かりました。金額も別にそこまで今のところはそのまま。

【市長】 そうですね。今まで説明してきたままだと考えていただいていいです。

【広報広聴課長】 ほかがございますでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。

午後2時10分終了